

看護師不足への挑戦

地域医療の未来を考える

病床数減少に歯止め



木本 眞 今治市医師会会長

今治市出身。順天堂大学医学部卒業。1978年岡山大学医学部付属病院放射線科に入局し、1992年には助教授に。専門は放射線科・内科。1995年、放射線第一病院へ。2008年に理事長就任。2014年、今治市医師会会長に就任し、地域医療の充実・連携に邁進。

足についてなど今治市が抱える深刻な課題について話してもらいました。

新生児検査の助成開始

記者

木本先生、本日はお時間をいただきありがとうございます。5年の幕開けはインフルエンザの大流行から始まっ

たこのことですが、どのような状況だったのでしょうか？

木本先生 はい。年末年始は、インフルエンザの患者さんが1

日500〜700人ほど訪れるという厳しい状況でした。医師や看護師たちは正月返上で対応に当たりましたが、現場は非常に大変でした。

記者 次に、今年の4月から愛媛県全域で赤ちゃんの先天的異常に対するマス

看護師不足が深刻との、

記者 それは大変な状況でした。どうしてこれほど大規模な流行になったのでしょうか？

木本先生 一つの原因は、新型コロナウイルスの流行が落ちてきたこと。その影響で、これまで徹底されていた感染症対策が減少し、インフルエンザが広がりやすくなったのだと思います。改めて、マスクや手洗い、消毒といった基本的な感染対策の重要性を痛感しました。

記者 さて、今治地域では

木本先生 はい、愛媛では画期的な取り組みとして、赤ちゃんの健康を守るためのマスクリーニング検査を全域で実施することになりました。これにより、先天的な異常を早期に発見し、必要な治療やケアを迅速に行えるようになります。

記者 素晴らしい取り組みですね！この施策が他の地域にも広がることを期待しています。

木本先生 はい、愛媛では画期的な取り組みとして、赤ちゃんの健康を守るためのマスクリーニング検査を全域で実施することになりました。これにより、先天的な異常を早期に発見し、必要な治療やケアを迅速に行えるようになります。